

中東レポート

クリントンの勝利と中東和平への陰り

一九九二年一一月一〇日

米国の大統領選挙では、内政、経済の重視を旗印にしたクリントンが勝利し、国際的には保護貿易主義傾向の強まりとそれゆえの帝国主義間の矛盾の拡大が予測されている。敗北したブッシュ政権が、対EC制裁措置を打ち出し、米

とEC間での矛盾ばかりでなく、EC内の矛盾を作り出しているが、それは、将来日本をも含めたさまざまな矛盾の続出という、クリントン時代の予兆と言えよう。

中東に関してクリントンは、一応和平過程の継続を表明している。が、よりイスラエル寄りの政策展開をすることは目に見えており、アラ

ブ側はより苦況に立たされるであろう。ブッシュ政権による一〇〇億ドルの信用保証が中東和平の主催者、調停者としての立場性に疑問を投げかけたが、「統一エルサレムをイスラエルの首都として承認する」ことをも選挙中に打ち出していたクリントンの政権になれば、和平過程の枠組みそのものが違つてきかねない。

「中東和平過程は不可逆地點を通過した」から、クリントンになつても継続するという見方をした。対して、バハレーンの情報相は、「第一次大戦後、英國でチャーチルが選挙で敗けた。彼は国民が変化を求めていたから敗けたのだ」、ブッシュも同様であり、「われわれは国際的な政治的世界的な政策の観点を持った偉大な人物を失つた」、「湾岸の人々は新政権が地域と米国

そうしたことに焦点を当てつつ、この間の動きを見てみたい。

一 クリントンの勝利とアラブ側の反応

中東諸国の中で、ブッシュの敗北=クリントンの勝利を歓迎したのはイラクで、「ブッシュは歴史のごみ箱に捨てられた」と評し、バグダッドなどでは祝賀デモが繰り広げられた。対するクウェートの方はがつかり、まさに明暗を分した。

また、リビアもブッシュの敗北に希望を託した。カダフィ氏は、「ブッシュが真剣に実現しようとした新世界秩序の神話は別のものに道を譲つた」と言い、民主党政権に期待を託す発言をした。

彼は国民が変化を求めていたから敗けたのだ」、

- ・クリントンの勝利と中東和平への陰り 1
- ・資料 5
- ・獄中者の自由と独立の呼びかけ
- ・PCC声明(抄)
- ・PFLP、DFLPの政治声明
- ・パレスチナ一〇組織の政治声明
- ・DFLP(アベド・ラボ派)の政治声明(抄)
- ・ヨルダン=イスラエルの合意とパレスチナ(抄)
- ・重要日誌(一九九二年一〇月一一日) : 14

第 84 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL.(03)3291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費24000円

目次

の利益を守るために同様の政策を遂行するようとに望んでいる」と評した。

他方 ラフサンジャニ政権の声を反映していると言わっているテヘラン・タイムズは、「過去半世紀の米国との経験は、政権が共和か民主かでなんらの幻想もありえないことを示している」、「米国の政治エスタブリッシュメントには、アラブへの熱望が深く根を下ろし、新大統領が民主であれなんらの選択もない」としている。

和平過程に関しては、シャラード・シリア外相は、「クリントン氏がアラブとイスラエルの間で、一方の側につくことなく、公正な主催者としてすることを期待する」と懸念含みの発言をし、エジプトのムサ外相も、米国がアラブ・イスラエルの和平努力を続けることは「死活的なこと」であり、「中東和平を軽んじるということはない」と不安の打ち消し発言をし、在米レバノン大使も、米国の政権交替によって一定テンポは遅れるだろうが、「クリントンは和平過程を注目し、個人的な特使を任命して、遅れを出来るだけ短くしようとする」と発言している。このようにアラブ側には、クリントンの立場性への不安が見え隠れする。

ワシントン・ポスト紙が、イスラエル・ロビーの中でも最も強力な組織と言われる米・イスラエル公報委員会(AIPAC)のニューヨーカー責任者ステナーのクリントンとの関係を強調した電話での会話を暴露した。ステナーが、あるビジネスマンに、AIPACとクリントン陣営との強いつながりを自慢し、「言っておく

けど、私はクリントン陣営に多くの友人を持つている」し、とりわけ「ゴア(次期副大統領)はわれわれと深い関係がある」と言つたうえに、AIPACはクリントンに次期國務長官の人事に関して働きかけ、「交渉している」などと言つたことを暴露し、ステナーはそのポストを辞任した。だが、ステナーもAIPACも、クリントン陣営との特殊な関係や國務長官人事に関する事実関係に関しては、否定も肯定もせずという対応をしているといわれている。

サッダム政権やカダフィ政権の歓呼や期待とは裏腹に、クリントンになればアラブ陣営総体にとって、負の要因が強くなるであろう。クリントンが、一月九日にラビンに電話したことにも示されるように明確にイスラエル寄りの姿勢をとつてくるだろうからである。

シャラード外相は、「われわれは、ホワイトハウスの(主人の)交替が米国の対外政策の大きな変化になるとは考えていない。米国は中東に大きいなる利益を有しており、どの米大統領とてそれを無視しえない」からだ、また、ブッシュを親アラブと言ふ人々がいるが、決してそうとは言えない、「イスラエルに一〇〇億ドルの信用保証を与えたのはブッシュである。イスラエルの高精度の軍事能力維持を約束したのはブッシュである。シオニズムを人種主義とみなした国連決議の撤回を支援したのはブッシュ政権である」、また「クリントンが(統二)エルサレムをイスラエルの首都とみなすと公的に宣言するには問題がありすぎる。世界中のモスレムを

挑発することになり、米国にとつて深刻な問題となるからだ」、いすれにせよ、「われわれはアラブ・イスラエルの和平討議の正直・公平な主導者たることを望んでいる」、「クリントンはイスラエル寄りで正直な調停者と言い難かつた」のは事実だが、それを「被占領下での弾圧の停止」や「パレスチナの自決権の承認」などをもつて、「よき出発点」を創つてほしい、と述べている。そこには、クリントンのイスラエル寄りへの警戒が示されている。

クリントンは、かつてエジプトとイスラエルの間でキヤンプ・デービッド合意を作り上げたカーターを中東和平の特使にするという噂が流れており、また、アラブ内では、クリントンの和平過程への関わりを強調する論調が連日のよう見られる。が、それもクリントン時代へのアラブの警戒の裏返しでしかない。

逆に、現在の和平交渉への反対派を中心的に、クリントンになつて、中東和平が破綻状況に陥り、かつ帝国主義間の矛盾が強くなれば、米国主導のあり方そのものの見直しがより容易になり、再度国運を中心とした交渉へと枠組みそのものを作り直すチャンスだという見方も、アラブ内では強くなつてきている。

二 第七次交渉

一〇月二一日から開始された第七次二国間交渉は、米大統領選期間の中斷直前にヨルダンが今後の議題(案)で合意した。他の諸国との議題が、レバノン南部の情勢を反映した非難の応酬

から、一日早く休会したなかで、それはなされた。

仮のリベラシオン紙の報道によれば、合意文書(案)は、「六七年戦争でヨルダンへ難民化したパレスチナ人の帰還」、「四八年難民の帰還」、離散家族の統一、西岸における入植地の凍結、六七年に占領したヨルダン領の返還と国境線の確定、大量破壊兵器の廃棄、ヨルダン川とヤルムーク川の水の分配などの七つの交渉議題を確定し、そうした全体を貫く目的は中東における正当で全体的永続的な和平を達成するためであり、安保理決議一二四二、三三八を基礎にしていく、というものだという。

イスラエルはあたかもヨルダンとの平和協定が成立したかのように喧伝した。だが、この合意には、パレスチナ、ヨルダン、レバノンなど反対派から強い批判が出ている。とりわけ、国境線の確定ということは、パレスチナの自治に関わる問題であり、かつエルサレム問題にまつたく触れていないことは、モスレムとして許し難いし、かつパレスチナ側の交渉をいつそう苦況に追いやることにつながるからである。

パレスチナ側は、一〇月一五日からの中央評議会で、一年経つて暫定自治の開始にはならないが、交渉を継続することを確認した(資料参照)。そして、一七日からのアンマンでの前線諸国会議で、パレスチナ側がシリアの交渉の方を批判し、会議は紛糾した。進展が伝えられていたシリアに対して、パレスチナを置き去りにするな、包括的和平の原則を堅持せよとい

うのが公式の立場だが、実はPLO主流派は、妥協を合理化し、自治開始時期を早めるために、戦術的にそうしたのだとも言われている。

それを裏書きするかのように、エコノミスト誌(一〇月一七・二三日付)は、一〇月初旬にロンドンで、双方から数名ずつが参加して会談をしたこと、イスラエル側にはモサドの元高官などが含まれていたことを伝えている。また、カイロからの情報として、エジプト政府がPLO側に、取りあえずガザの自治から開始してはどうかと勧め、すでに一定のPNCメンバーの支持も取り付けたことが伝えられている。

だが、一〇組織の動向だけでなく、なんらの主権を認めない(地方自治並みの)「自治」、パレスチナのアイデンティティを抹殺してしまいかねない「国民化」、エルサレム問題などへの領内外人民からの反対の声の高まりと、他方でのラビン政権の提案とのギャップの大ささのなかで、主流派は苦況に陥っている。そうした出口のない状況でシリア非難をもつてかわそうとした、が、逆にシリアから非難され、より苦況に陥つた。そこへさらにヨルダンの「合意」と繰り音の勝利があり、アラファート議長は交渉を再検討するための緊急の拡大指導者会議を呼びかけた。同時に、クリントンに手紙を送付したり、ヨルダン側に一定の修正を求めるなどして、再度パレスチナ人民の支持を取り付けようとした。

ヨルダンは、PLOから国境調整、エルサレム問題、難民規定などに關して修正の申し入れ

もあり、一月九日の再開の際に、「若干の修正」を提案し(イスラエル側は失望を顕わにしたと伝えられている)。

他方、フセイン国王はイラクのフセイン体制を批判し、クリントン時代を見越した米国寄りの姿勢を示した。これには、クウェートが「過ぎる」と批判。また、アラファト議長も、サウジとのこじれの打開のため、サウジ訪問を要請したが、サウジの皇太子から「われわれは兄弟ではあるが時期は適当ではない」と拒否された。

クリントンの勝利に対する反応にも示される湾岸戦争の余波は、このように、和平交渉の当事者にも反映している。が、EC内の矛盾と同様、アラブ内でも米国の政権が交替したら、もつと深刻なものになりかねない状況にある。

三 人民の鬭い

獄中者のハンストと呼應したインティファードの再燃は、ラビン政権の仮面を剥がさせた。獄中のハンスト自体は、一応終結に至つたが、人民弾圧に現わされたラビンの本性と占領を合法的なものにしようという交渉での対応は、人の怒りを大きなものにしている。

そうした人民の怒りをバネに、反対派一〇組織を軸に占領軍への武装闘争の拡大が顕著になっている。例えば、一〇月一五日、四八年被占領地ガリリーでユダヤ人を殴り殺し、その男の車で逃亡。一七日には、西岸ラマラ地区で入植地への道の仕掛け式の発火装置でマイクロバス

が炎上、一人死亡、九人負傷。西岸ヘブロン地
区では、二一日に軍のパトロール車に発砲、二
人が負傷、二五日には、軍の検問所への攻撃で
一人死亡、一人負傷。さらには、ヨルダンからの
侵入作戦（失敗）などといった具合である（そ
れに対して、ラビン政権がその仮面を剥いでき
たばかりか、極右や入植者どもは、「テリトリ
ーでのユダヤ人暗殺に対して、武器を取り独自の
司法権行使する」と、パレスチナ人への「報
復」を宣言している）。

パレスチナ被占領地での闘いと呼応した南部
でのレジスタンスは、一〇月二五日にイスラエ
ル軍のコンボイへの地雷攻撃で五人死亡、五人負
傷という大戦果を挙げた。レバノンのアッディ
ヤール紙が「われらが栄光と活力のシンボル」
と評したのをはじめ、各紙がレジスタンスを称
えた。イスラエル軍は、「報復」と称して、レ
バノン各地への空爆や艦砲射撃、砲撃を展開。
イスラエルの諜報員が「記憶にあるうちでもか
なり激しい砲撃」と言うほどの砲弾の雨を降ら
した。が、そうしたなかで、レジスタンス側も
ガリリーのキリヤット・シャモーナへのロケット
攻撃など、さまざま闘いを果敢に展開して
いる。

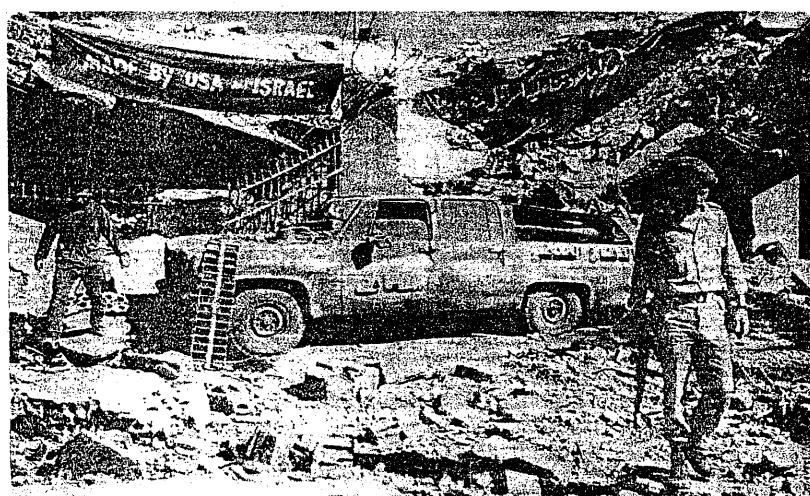
また、ナスマラッラー師は、一〇月二七日、「ラ
ビンの発したわれらが人民、戦士に対する侵略
と恒常的な恫喝」という政策の継続はわれらが人
民と戦士に対しては有効性はない、「われわれ
はレジスタンスと防衛という自然にして正当な
権利を行使しており、決してこれを放棄するこ
とができる」としている。これに対して、シャ
マス・レバノン代表團長は、イスラエルは占領
軍であり、その占領が根本的な原因であると反
対し、交渉はそうした応酬で終始した。

一方、國連軍（UNIFIL）のノルウェー
ID）のインタビューで、「ハズバラはレジ
スタンスの組織である」、それにどう対処する
かは、イスラエルではなく、レバノン政府に決
定権がある、「われわれは戦争（第二次大戦）
時に（ナチの）占領に対抗するレジスタンスの
組織を持っていた」、「今、イスラエルは南部レ
バノンを占領」（し、それに対するレジスタン
スが展開されて当然だと指摘した、また、「シ
リア軍はレバノン政府の要請で入った。それゆ
え、シリア軍の将来に關して決定するのはやは
りこの（レバノンの）政府である」と語ったこ
とが報道され、イスラエル側は慌てて「ノルウ
エー政府に抗議した」と一月二日のイスラエ
ル放送は伝えた。

イスラエルは無差別的な攻撃を繰り返してい
るばかりか、ハズバラの活動を野放しにして
いるシリアとレバノンの政府への非難をも
繰り返し、「どんなことになつても責任はそつ
ち側にある」としている。これに対して、シャ
マス・レバノン代表團長は、イスラエルは占領
軍であり、その占領が根本的な原因であると反
対し、交渉はそうした応酬で終始した。

二〇年ぶりの国会選挙後、新たに組閣された
ハリリ内閣も、重要課題の第一項に「南部の占
領からの解放」を掲げている。それを反映する
かのように、一月一〇日には、イスラエルと
四 今後の展望

イスラエル内では、右派が「イスラエル・ワ
ン」という撤退反対運動を結成し、首相府への
デモなどでラビン政権への圧力をかけている。
また、前述したように、極右はパレスチナの武
装闘争に対抗するためという口実で、地下武装
組織を組織している。



基本的で原則的なあり方をもつて、あせらず、
闘っていくことこそが大事であろう。

ラビン政権は、そうした反対運動やクリント
ンの政策を利用して、今を逃したら交渉のチャ
ンスはないかのごとく言いつのり、交渉をイス
ラエルに有利なものにしていこうとしている。
ヨルダンとの基本合意を突破口に、他の交渉国
にイスラエルの論理を押し付けようとしている。
国連決議を基礎にするとは名ばかりで、実
際には「イスラエルの安全保障」という名目を
とも言われる実業家のハリリ氏を首相とする新
内閣が成立した。二〇年振りの選挙を巡って、
米は批判的ではあったが、ブッシュ政権はこの
新内閣を歓迎した。クリントンは、選挙の無効
を主張し、ボイコット派は再選挙になることを
期待していたが、国際的にも選挙の合法性が承
認された。慌てた反対派の中からも、入閣に向
けた働きかけがなされたが、ハラウイー・ハリ
政権はそれを受け付けなかった。

新内閣は、政府の重要な課題として、南部の被
占領からの解放、内戦による経済的破壊からの
再建、政治改革などを掲げ、一月九日の首相
の所信演説で、「占領からの土地の解放、戦争
の余波からの国家の解放、腐敗からの行政の解
放、無秩序からの市民の解放」と表現した。そ
の組閣に当たって、これまでの宗派政治にこだ
わらないポストの配分を行い、政治の構造的な

ではない」と述べ、以降も同様のことと述べて
いる。

その子飼いの民兵による無差別的な砲撃に対し
て、レバノン軍も射ち返したことが報じられ、レジ
スタンスの「カチューシャ攻撃の継続への警告」
に加えて、「レバノン軍の関与を非常に深刻に
受け止めている」「すべてが爆発することにな
ろう」（ルブラン）と恫喝を繰り返し、シャマ
ス团长は「イスラエル代表は問題をイスラエル
とハズバラの戦闘と矮小化しようとしている
が、基本的な問題はイスラエルが占領国である
という事実にこそある」と反論した。また、ブ
エズ外相も、イスラエルはレバノンを交渉から
引かせようとしている、「和平過程を破壊しよ
うとしている」のはイスラエルの側だと非難、
イスラエルがレバノン領を占領している限り、
政府にはレジスタンスを阻止する権利はない、
と宣言した。

こういった状況に対し、レバノンの各新聞は、
クリントンの勝利を背景にイスラエルは力でレ
バノンを「和平協定」に調印させようとしてい
ると非難している。

クリントンの勝利を背景にイスラエルは力でレ
バノンを「和平協定」に調印させようとしてい
るが、基本的な問題はイスラエルが占領国である
という事実にこそある」と反論した。また、ブ
エズ外相も、イスラエルはレバノンを交渉から
引かせようとしている、「和平過程を破壊しよ
うとしている」のはイスラエルの側だと非難、
イスラエルがレバノン領を占領している限り、
政府にはレジスタンスを阻止する権利はない、
と宣言した。

こういった状況に対し、レバノンの各新聞は、
クリントンの勝利を背景にイスラエルは力でレ
バノンを「和平協定」に調印させようとしてい
ると非難している。

資料

獄中者の自由と独立の呼びかけ
—インティファーダの声、PLOの声
よりも大きなものはない—

民族統一指導部(UNL) —パレスチナ国呼びかけ 第八七号

ごみなどを撤去するボランティア活動の組織化を呼びかける。タクシー運転手や路上販売業者には、公衆ルールを尊重し、円滑な交通が可能なよう努めるよう、呼びかける。

七、UNLは、アラブ・オーソドックス発那人会が少数派の権利を主張し、そのアラブの財産の維持を求める立場を高く評価する。また、彼らの大会が開かれることを祝福する。

（「われらが英雄的な人民」）

インティファーダの英雄たちに占領軍兵士や入植者たちに対するあらゆる形態の大衆的で果敢な闘いを拡大すること、および以下を、呼びかける。

1、獄中者の闘いハシストとの連帯を、座り込み、デモ、同スト支援国民委員会の活動支援などをもって、強化すること。

2、一〇月八日、アル・アクサ・モスクでのテロリストによる虐殺追悼を、活動の拡大と犠牲者の家族への訪問をもつて遂行せよ。

3、一〇月九日、インティファーダの五九カ月目の突入を祝し、獄中者への連帯を明確にして、ゼネストを。

4、獄中者の強固な闘いを支援するスローガンを壁に書かん。

5、一〇月七、一五、二五日は、商店は夜まで営業を。

われらが英雄的な獄中者による占領者のバスティーユの中でのスト万歳！

輝けるインティファーダ万歳！

われらが殉教者に栄光を！

PCC 声明（抄）

民族統一指導部、パレスチナ国
九二年一〇月一日

（大会）
（「われらが英雄的で至誠なる獄中者と殉教者の大会」）

①PCCは「ランド・フォー・ピース」の原則に基づいて現在進行している交渉の基本ルールとして、パレスチナの大義に係る国際規範並びに国連決議を堅持することを確認する。これは、国際規範に則ったパレスチナ人民の民族的政治的権利を保証するためのものであり、そこには帰還、自決、エルサレムを首都とした独立国家樹立の権利、したがって、パレスチナ、ヨルダンという兄弟的二国民の自由かつ自発的な選択に基づく両国連邦の権利が含まれている。

②戦争による領土併合を厳禁し、エルサレムを含むすべての被占領地からのイスラエルの撤退を求めた安保理決議二四二の堅持。撤退は、その当初から全段階を通して適用されるべき。

（大会）
（「われらが英雄的で至誠なる獄中者と殉教者の大会」）

③国際法の諸原則、四九年ジュネーブ条約、国連諸決議の堅持。これらは占領下パレスチナ人の市民的権利を保護し、入植を国際法違反とみなしている。

米国の関与とは、包括的で恒久的な和平への障害となっている入植の即時停止と既存入植地の撤去とに彼らが責任を負うということである。イスラエルによる「政治的」あるいは「安全保障上」といった入植の区分を拒否する。

④パレスチナ人民のみが権威の唯一の源泉であり、暫定期は、最終目標に至る途上で短期來たるべき段階でのパレスチナの運動の原則と方法に関し、PCCは以下決定した。

一、交渉について

（大会）
（「われらが英雄的で至誠なる獄中者と殉教者の大会」）

⑤PCCは、「ランド・フォー・ピース」の原則に基づいて現在進行している交渉の基本ルールとして、パレスチナの大義に係る国際規範並びに国連決議を堅持することを確認する。これは、国際規範に則ったパレスチナ人民の民族的政治的権利を保証するためのものであり、そこには帰還、自決、エルサレムを首都とした独立国家樹立の権利、したがって、パレスチナ、ヨルダンという兄弟的二国民の自由かつ自発的な選択に基づく両国連邦の権利が含まれている。

⑥戦争による領土併合を厳禁し、エルサレムを含むすべての被占領地からのイスラエルの撤退を求めた安保理決議二四二の堅持。撤退は、その当初から全段階を通して適用されるべき。

る犠牲があるうと人民の権利を堅持し、自由と独立が達成されるまで闘いを続けることを、人間の意志として明確にしている。

われらが獄中の戦士たちは、今、獄中者に國際的に認められている最もさやかな権利をも禁止し、獄中者を抹殺し、その勇敢な意志と堅い決意を打ち碎く、最も卑劣な弾圧と抑圧を開いているファシスト監獄当局に対して、「屈ることなく、断食を」の闘いを英雄的に闘っている。空っぽの胃でもつて、われらが獄中者たちは、抹殺と奴隸化の企てに対するわれらが人民の拒否を表明し、占領者どものみにくい意図と暴虐と対決することを主張して、闘っている。彼らの闘いはすべての人民の闘いである。それゆえ、獄中者との大衆的連帯は、被占領下のパレスチナ全域における民族的な闘いの拡大として表現されなければならない。結束を固め、すべての努力を獄中者への支援として統一すべきである。民族的大衆的な團結を強化することこそがシオニストの弾圧、諸政策、陰謀と対決する強固な防壁である。

今月の初旬は、神聖なアル・アクサ・モスクにおけるファシスト・シオニストによる虐殺・シオニストのテロの歴史の中での耻辱の一つの記念日である。アル・アクサの殉教者に榮光と不滅を！ われらは、その道がいかに遠く、いかに犠牲の多いものであれ、殉教者の血への誓いを守り続けることを明確にする。

UNLは以下を呼びかける。

一、UNLは、われらが獄中者たちのストを

称え、すべての人民がさまざまな活動を通して連帯を表明することを呼びかける。UNLはまた、国際諸機関、諸国の代表部が占領者のパレスチナ人獄中者に対する政策を非難、暴露し、イスラエル政府をして国際決議を尊重するよう警告する。UNLは、そうした方法、あり方への拒否を再確認し、われらが人民がそうした行動に対し、断固対応するよう呼びかける。

三、UNLは、米国の政策が、大量の最新鋭武器を供与し、シオニストの軍事的優位性の確保への加担に代表される、完全にシオニスト擬制国家寄りであることを非難する。これは、「新世界秩序」という名の米国の植民地主義的な計画の現実である。

四、UNLは、シオニスト産品のボイコットを再確認する。それを守ることの必要性とそろそろの記念日である。アル・アクサの殉教者に榮光と不滅を！ われらは、その道がいかに遠く、いかに犠牲の多いものであれ、殉教者の血への誓いを守り続けることを明確にする。

五、UNLは、エルサレムのバス会社に価格決定に際し、人民の生活状況、とりわけ、学生や低所得層を考慮に入れるよう呼びかける。

六、UNLは、人民、大衆的機関に、オリーブ収穫期に際して、われらが農民を支援するボランティア労働日を組織し、われらが人民のルーツを共有し、この民族的な生産活動への自負と連帯、協力の精神を發揚するように、呼びかける。また、われらが道路や地区を清掃し、



PFLPとDFLPの統一指導委員会は会合をもち、最近の政治情勢および交渉での清算的

（その一）

PFLP、DFLPの政治声明

九二年一〇月

⑤聖戦と武装闘争の継続は、交渉という闘いとともに、占領粉砕まで、自由と独立の実現まで続くものである。交渉は英雄的インティファーダと武装闘争に並ぶ、今一つの戦場なのだ。
＊勝利の日まで革命を！

④領内人民、インティファーダへの表敬。獄中者へのあいさつ。

③PCCは、被占領地内のパレスチナ国民会議（PNC）代議員の充足に関する一連のPNC決定の履行状態を討議した。領内外人民の包括的な参加と代表権の確保を基本に、PCCはこの問題について執行委員会とPNC議長局が、実施状況のフォローと、領内諸機関、人民との必要な相談を図るよう委託する。PCCは、同委員会と議長局が、適当な期間内に、外部の干渉なしに民族の目標と人民の自決権を保持する方法で、この決定を実施するよう、呼びかける。

②聖戦と武装闘争の継続は、交渉という闘いとともに、占領粉砕まで、自由と独立の実現まで続くものである。交渉は英雄的インティファーダと武装闘争に並ぶ、今一つの戦場なのだ。

＊勝利の日まで革命を！

支援するよう呼びかける。

③PCCは、被占領地内のパレスチナ国民会議（PNC）代議員の充足に関する一連のPNC決定の履行状態を討議した。領内外人民の包

括的な参加と代表権の確保を基本に、PCCはこの問題について執行委員会とPNC議長局が、実施状況のフォローと、領内諸機関、人民との必要な相談を図るよう委託する。PCCは、同委員会と議長局が、適当な期間内に、外部の干渉なしに民族の目標と人民の自決権を保持する方法で、この決定を実施するよう、呼びかける。

④領内人民、インティファーダへの表敬。獄中者へのあいさつ。レバノン在住パレスチナ人への特別のあいさつ。

⑤聖戦と武装闘争の継続は、交渉とい

う闘いとともに、占領粉砕まで、自由と独立の実現まで続くものである。交渉は英雄的インティファーダと武装闘争に並ぶ、今一つの戦場なのだ。

＊勝利の日まで革命を！

的、一時的段階にすぎないとの立場の堅持。この段階では、パレスチナ人民は、立法府選出の自由選挙を実施する権利を有する。権限は、エルサレムを含む土地と全天然資源に対するパレスチナ人民の絶対的主権を保証する国際的保護のもとで、形成される。

⑤国連決議一九四に従つた帰還権堅持を根拠に、PCCは、（パレスチナ人民の）再定住計画、政策への反対を確認する。また、多国間交渉が、二国間交渉における彼らの提案と密接に結びつけられることも確認する。（多国間、二国間）両トラックの交渉結果、二つのトラック間のリンクを堅持するとのアラブ側およ

び国際社会の立場を維持すること、そして、イスラエルによる彼らが被占領地からの撤退と

国連諸決議の明記する彼らが民族権利への保證の確約以前に、アラブーイスラエル間の関係正常化をもつてかかるリンクを無視する試みには対決していくことも、合わせて確認する。

⑥PCCは、入植活動に対する米国の立場の後退を不法とみなす。イスラエルへの信用保証の供与を和平過程を脅かす行為とみなす。

⑦PCCは、パレスチナの交渉参加を決定し、PCC諸決定が明確な基礎としてあること、また、ペレスチナ代表権に關する不当な条件を取り除くよう働きかけ続け、交渉の両トラックにおいて、エルサレムを含む被占領地内外からの代表団という方式にしていくことの必要性を確認する。米国には、米—パレスチナ間の対話

を再開するよう、呼びかける。パレスチナ人民の唯一正當な代表はPLOだからである。

⑧PCCは、パレスチナ代表団、および被占領地内外を通じた彼らが人民の権利と團結を守るというその役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

（その二）

二、アラブ・レベルに関して

①包括的和平および安保理決議二四二、三三八、四二五の完全実施にむけた交渉に關するアラブ側のハイレベルの調整の維持、拡大の必要性の確認

②アラブ内團結再構築の決意。アラブ・サミット開催の呼びかけ

③核を含むイスラエルの大量破壊兵器廃絶にむけ、国際的な働きかけを行う決意

④ヨルダン人民との兄弟的関係、連邦の可能性の再確認

⑤イラク、リビア両国民への連帯表明。両国への禁輸措置への反対。イラク領土の一体性保持への支持。アブ・ムサ島などへの首長國の主権への支持

⑥アラブ諸国に対する、パレスチナ人民、インティファーダへの支援再開の要請

⑦マグレブ諸国からの政治的・精神的支援への

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

を再開するよう、呼びかける。パレスチナ人民による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

⑧PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その三）

三、パレスチナ・レベルに関して

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、イスラエルが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その四）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その五）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その六）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その七）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その八）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その九）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十一）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十二）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十三）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十四）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十五）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十六）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十七）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十八）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その十九）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十一）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十二）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十三）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十四）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十五）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つていることを高く評価する。

②PCCは、エルサレムが他の六七年占領地に於けるPCC自身の努力を継続していくことを高く評価する。

（その二十六）

感謝表明、とりわけチュニジア政府、人民への感謝表明

①PCCは、全国人民、全党派、全勢力の参加による対シオニズム共同闘争を通して強化され、深められた民族的團結と民主的路線の堅持を守るために、その役割に、深く敬意を表明する。また、代表団がPLOの指示と決定に従つて

人民大衆は、九月二三日の民族的ゼネスト呼びかけに一致して応え、その後も、闘争の全分野で活動を継続し、行政的自治計画の拒否、粉碎という意志を表明している。

PLO主流のスト妨害、破壊策動にもかかわらず、ゼネストの大成功は、かかる計画や「解決」を拒否し、解放・独立・帰還まで闘争を継続するとのわれらが人民の決意を確認する国民の意志表明である。

一〇組織は、われらが英雄的獄中者の無期限ハンストにも、敬意を表明した。彼らは強固な大衆的支持を受けており、ゼネストとこの大衆的支援とは、インティファーダの再生、拡大における、また行政的自治計画反対闘争の新たなサイクルと、一〇組織は評価している。ゼネストは、PLO主流によって展開されている敗北主義的傾向を、余すところなく論破した。

一〇組織は、パレスチナの人民大衆、戦闘的諸勢力・諸人士、アラブ・イスラム民族大衆、自由と人権を唱道するすべての国際勢力に対し、獄中者のハンストの正当な要求に敵シオニストが応えるよう、圧力を拡大させることを呼びかける。同時に、獄中者に対するシオニストの野蛮な抑圧・テロ政策を停止させるような活動を訴える。

インティファーダがその昂揚を回復し、われらが人民の解放・独立・帰還の決意を確証する一方で、交渉団がPLO主流の庇護と指示のもとで妥協の道を歩み続け、七次交渉への準備を行っていることに、一〇組織は着目した。これ

は、清算計画への拒否とその粉碎を表明したわれらが人民の統一した意志と真逆の方向をとることである。一〇組織は、また、PLO主流が、行政的自治なる清算計画を通過させ、PLOと譲り渡しえぬ民族的権利とを抹消せしめんとして、人民および戦闘的勢力の分断を試み続けていることにも着目した。パレスチナ人民大衆には、PLOを守り、PLOが達成した民族的成果を維持していくことが求められている。

一〇組織は、現在進行している交渉とわれらが人民に投降を強いる清算計画の求めに対する拒否を声明する一方行政的自治を拒否し、交渉団がわれらが人民を代表してはいられないことを確認してきた。一〇組織は交渉団の即時撤収によるいつさいについて、領内外の全パレスチナ人による国民投票の呼びかけを再確認する。

一〇組織はPCCへの招請を慎重に検討し、PLO主流がこうした会議をもつてすでに行つた妥協、あるいは七次交渉で指示する妥協の隱れ裏にせんとしているとの見解に達した。PLO主流は交渉団に正当性を与える、行政的自治計画を通過させんとしている。

PCC参加に対する個々の立場の相違はある、一〇組織はいずれも、われらが民族の郷土と人民の大義防衛に重大な関心を払い、PLO主流による妥協の正当化に對決し、行政的自治計画の断固拒否を確認し、交渉団に撤収を呼びかけていくことを確認している。それゆえ、一

大の新しい戦略をつくり、わが人民の唯一の合法的代表たるPLOの役割を強化し、国際的に正当な決定を履行し、帰還・自決・独立国家建設といった正当な民族的権利を保証する包括的な解決のため闘うことの要請している。

統一指導委は、人民の未来と民族の運命に係るすべてについて、領内外のすべての人民の国民投票を行うことをあらためて呼びかけ、同時に、すでにそうした呼びかけが人民の各階層からなされていることへの歓迎を表明する。

統一指導委は、領内外のあらゆる地域で、インティファーダを拡大し、「自治」拒否へと大衆を動員する活動に全力をあげ、すべての民主的諸勢力や民族的イスラム的勢力と密接に協力しあい、清算的な解決を粉碎し、帰還・自決権、独立国家建設の人民の諸権利のため、かかる努力を継続し、遂行する必要性を確認する。

* インティファーダに勝利を！

* 清算的解决粉碎！

〈その二〉

九二年一〇月二三日

統一指導委は、PLO中央評議会（以下PCC）の結論および進行中の交渉の決定的転換点となると思われる第七次交渉の開始を中心とした新たな情勢と共同計画について討議した。

C C 討論で両組織の果たした役割を総括した。

両組織は、清算的解決に反対するさまざまな民主的、民族的、イスラム的勢力の一一致した政治

的立場を、そこで表明した。また、九・二三ゼネストとそれに続く破竹の勢いの大衆活動が示す、被占領郷土内外人民の圧倒的多数の意志とは真逆の、PLO主流によるマドリッド以来の道への拘泥が、われらが民族の大義を危機にさらし、PLO諸機関の信頼性を損ない、民族的団結にも否定的影響を及ぼしている。

統一指導委は、ラビン政府の「新」提案には名目や言葉上の修正を含んでいても、その狙いは、今次交渉中、米大統領選前にも「合意の枠組み」をつくりあげて、パレスチナ、アラブ側の今後の交渉に上限を設け、分離解決、部分解決への地ならしをし、行政的「自治」計画への進展を図るものであるとみなす。

こうした差し迫った危険を防ぎ、交渉からの撤収を呼びかける声を大にすべく、統一指導委は、郷土内外のパレスチナ人民大衆に、大衆活動の拡大を呼びかける。また、行政的「自治」計画への合意を拒否し、かかる計画を粉碎するまで対決していくことを呼びかける。交渉団には、パレスチナ人民の名において何らかの協定に調印する権限などはない。交渉の方向をはじめ、われらが人民の民族的命運に係るいっさいのことについて、全パレスチナ人民による、国際監視下での国民投票の実施を強く求めていくよう、訴える。

統一指導委は、九・二三ゼネストと英雄的な獄中者のハンストとそれへの呼応のなかでかちとられたインティファーダの刷新・拡大を歓迎する。獄中者のストの成果とは、大衆闘争とい

パレスチナ一〇組織の政治声明

九二年一〇月二十四日

* われらがパレスチナ・アラブの人民大衆へ

* われらがアラブ・イスラム国民大衆へ

パレスチナ一〇組織の指導者は緊急会議を開き、最近のパレスチナ情勢、および行政的自治計画反対にむけて組織された大衆活動を総括するとともに、PLO中央評議会（以下PCC）の開催提案についても討議し、今後の共闘継続にむけた計画を採択した。

一〇組織は、郷土内外のわれらが英雄的人民

これまでの全活動への大衆的反応への誇りをの続行、行政的自治計画粉碎のため、包括的国民的対話にはいるよう、呼びかける。

ている。

一〇組織は再度、パレスチナ交渉団はわれらが人民を代表していないし、人民の意思を表明していないし、人民の民族的運命と将来に影響するいかなる合意に調印する権限も与えられないこと、並びに、中央評議会の第七次交渉への参加決定は、わが人民の意思を表明するものではないこと、を宣言する。一〇組織は、自治策動とわれらが人民の再配置（＝国民化）や移民化の陰謀の拒否を再確認し、われらが人民の民族的権利を堅持することを確認し、民族的運動と将来に関わるすべてについて、国内・国外における全面的な国民投票の実施を呼びかける。

*われらが偉大な人民大衆へ

一〇組織は、自治策動に直面しているなかで、共同の事業を遂行し、パレスチナ大衆のなかでその策動を打倒するために行動し続けることを再確認する。

現在われわれは、われらが人民の闘いの歴史の中でも最も危機的な段階を経験している。それは、自治策動に対して全力を集中して対峙していくことを要求している。こうした状況のなかで、すべての人民の力を団結させ、この策動を打ち倒さなければならない。

われわれは、敵がわれらが人民の団結に脅しをかけ、われらが人民の栄えあるインティファーダを危険に曝していることを踏まえ、敵シオニストに対する闘いの主要な方向を転換せんとするいかなる試みにも反対することを明確再確認する。

その権利のために闘い続けるという決意と矛盾し、第二に、国際的に正当な決議およびそのうえでの交渉の原則に反している。われらが人民と大衆的な民族的な運動は民族的権利と民族的アイデンティティの承認という基礎を打ち固める。インティファーダとその大衆性を発展させ、パレスチナ代表団を支援する方途は開かれている。

パレスチナの拒否派という近視眼的で危険な視点が現われているが、それは交渉でのイスラエルや米国との困難な闘いを見ようとせず、パレスチナ交渉団を、PLO指導部を、さらにはパレスチナ人民の唯一正當な代表＝PLOそのものを疑問視せんとするものである。パレスチナ代表団に引き上げを言うが、他のアラブ諸国や代表団にはそれを避けるのは、アラブ、国際社会でパレスチナ人民との代表であるPLOの孤立化を、と言ふものでしかなく、イスラエルに拡張主義、テロリズム、抑圧政策に自由であれと言うに等しい。

交渉の継続は、複雑さと困難さにもかかわらず、あらゆる大衆的な闘いと広範な政治的な行動に支えられ、われらが民族的なアイデンティティ、土地、権利を防衛する暫定的な解決の達成の可能性へと道を拓いているし、それは民族独立国家建設への道もある。

そのためにも、われらが大衆、民族的な運動は以下を遂行することを求められている。

第一に、被占領地の内外を問わず、パレスチナ人民の力をわれらが人民のアイデンティティ

にする。

一〇組織はわれらが人民大衆に、一〇月二八日、清算と投降の和平過程に反対し、それを葬り去る決意を表明するため、街頭に出で、デモ、座りこみなどを展開するよう、呼びかける。

われわれはアラブ・イスラム諸国大衆とその諸勢力に、パレスチナ問題がアラブとイスラエルの核心的な問題であり、あらゆる可能な手段をもって自治策動を拒否せんとする、われらが人民の正当な大義への支持、支援と行動を、呼びかける。

*自治・再配置・移民化に、ノー！

*交渉からの即時撤退に、イエス！

*解放、帰還、独立に、イエス！

*勝利の日まで、栄えあるインティファーダを！

パレスチナ一〇組織（組織名一略）

DFLP（アベド・ラボ派）の政治声明（抄）

第六次交渉はラビン政権が陰謀政治を展開し、米選挙までの時間稼ぎとアラブ内の分断を創出しようとしていることが明確になった。こうした画策は、シャミール政権と同様のものである。もし、イスラエルがゴランに関して二四二や三三八を基礎としているなら、それは明確な進展であるが、完全撤退の拒否はマドリッド会議への招請状に反し、アラブ諸国間の「ランド・フォー・ピース」の原則での協調性を強化するだけである。

DFLP（アベド・ラボ派）の政治声明（抄）

イスラエルは交渉の内外でパレスチナ代表団の立場を弱める策謀を展開しているが、われわれは混乱に陥つたりはしない。われらが代表団の民族的な方向性の前に、イスラエルは自らが内部矛盾、不満、絶望に直面するし、パレスチナ側は土地、資源を含めた主権を有する立法権力を創出する準備ができる。

交渉の困難さや熾烈さ、イスラエルの策謀がどうであれ、それはわれらが民族的権利の確立をもって自治策動を拒否せんとする、われらが人民の正当な大義への支持、支援と行動を、呼びかける。

*自治・再配置・移民化に、ノー！

*解放、帰還、独立に、イエス！

*勝利の日まで、栄えあるインティファーダを！

パレスチナ一〇組織（組織名一略）

DFLP（アベド・ラボ派）の政治声明（抄）

ようとしている」と非難した。彼はまた、イスラエルの占領下にある「われらが人民の保護のために、国際的な監視団」をと呼びかけている。PLOの情報責任者のアベド・ラボは、ペスチナ交渉団は、国連安理会決議二四二の尊重と和平過程の全段階へのその適用、人権侵害の停止、ペレスチナ人民が自らの代表の選出可能たらしめる選挙の実施、エルサレムを含むペレスチナの土地に全面的な権限を有する暫定政府の形成などへのイスラエルの回答を待つている、という。

もう一つの重要な議題は、クリントンの勝利が和平過程にもたらす影響である。アラファトは、それに関する公式にはいつさいのコメントを避けているが、チュニジアの新聞とのインタビューで、アベド・ラボは、ペレスチナ人内部の不安を打ち消すかのように、「(PLOは)すでに大統領選挙の前から米民主党内の有力な勢力とコンタクトを行っている」と言った。そして、カーターを含めた民主党の有力者から、民主党政権は和平過程に積極的な役割を演じるという確認をえていた。と付け加えた。

第三の重要議題は、ヨルダンーイスラエルの合意である。それは、両国政府の承認をえねばならないが、ペレスチナ人の間に大きな論議と不安を作り出した。多くはその合意が個別的な和平の前兆とみなしている。アラファトは、この問題にも、公式発言を避けてきた。PLOはアンマンに代表团を送って、ヨルダン当局から合意の細目や言外の意味を聞くことにしたとい

とも一人が死亡。ガリリーでは、ユダヤ農民の殴殺、襲撃者はその農民の車で逃亡。

- PCC開催、シャフィイ、フセイニなども参加。
- 一七日に、交渉の継続を確認（資料参照）。
- レバノン、P.F.D.F.P.L.F.P.S.F.が「帰還ノート」に一五万人が署名と発表。

一〇月一七日

- エルサレム、獄中でと闘いで二人の葬式一大規模なデモ。
- 西岸ラマラ地区、入植地への道に仕掛けられた放火装置で車が炎上。一人死亡九人負傷。
- 前線諸国外相会談（アンマン、二日間）、二四二の遵守を再確認。エレカット、率直で明快な討議が行われ、誤解は解け、立場の強化がなされた。アベド・ラボ、各国はイスラエルとの討議を進展させることにおいて自由だが、一国の進展が他の諸国の代価でなされるという心配はしていない。

一〇月二〇日

- アシユラヴィ、自治政府云々の前に、まず最初に交渉の目的を確定すべきであること、二四二適用を遵守すること。
- ガザ、人民の鬪い、ペレスチナ一人、兵一人負傷。西岸でも鬪い、ベツレヘムで、一人が射たれ負傷。
- 南部、レジスタンスの地雷攻撃。
- ラビン、私は早期の進展を予期していない。交渉は非常にゆっくりし討議は長くかかるであろう。他方ラビノビッヂ、ダマスカスはわが国には領土の妥協に反対が高まつてきてい

ることを理解すべきである。

一〇月二一日

- 第七次交渉開始（一一月一九日までの予定）、米大統領選にらみ（本文参照）。
- 西岸ヘブロン地区、軍用車に発砲。二イスラエル兵士が負傷。
- 南部、イスラエルの空爆。一婦人が負傷。

一〇月二二日

- エルサレム、獄中でと闘いで二人の葬式一大規模なデモ。
- 西岸ラマラ地区、入植地への道に仕掛けられた放火装置で車が炎上。一人死亡九人負傷。
- 前線諸国外相会談（アンマン、二日間）、二四二の遵守を再確認。エレカット、率直で明快な討議が行われ、誤解は解け、立場の強化がなされた。アベド・ラボ、各国はイスラエルとの討議を進展させることにおいて自由だが、一国の進展が他の諸国の代価でなされるという心配はしていない。

一〇月二二日

- イスラエルでガス・マスクの回収と再配備、ペレスチナ人には配布されない。
- レバノン、ハリリを首相に任命、国会議長にはナビーハ・ベリー（本文参照）。

一〇月二三日

- 西岸、ガザ、人民の鬪い。少なくとも一人が殺される。
- トルコ軍、クルドへの大攻撃。

一〇月二四日

- 西岸、ヘブロン地区で軍の検問所への銃撃で一兵士が射殺され、一人負傷。他方ガザでは軍の発砲で三〇人が負傷。

一〇月二五日

- 南部、地雷攻撃でイスラエル兵五人死亡、五人負傷、この二年間で最大の戦果。レバノン紙は、レジスタンスを称えた（本文参照）。
- ラビン、入植者にゴランから完全撤退はないことを強調。

一〇月二六日

- アラブ、占領に対する民族的なレジスタンスであり、国際法や国連憲章に照らしても、レバノンのレジスタンスは正当である。シャマ



う。代表団は、とくに国境問題、難民問題に重点をおくだらう。ヨルダン当局者は、合意のいかなる側面でもペレスチナ側との見解交流の準備があると伝えられている。また、アベド・ラボのPLO代表団との第一回の見解交流はすでになされたともいわれる。

シリアルを拠点とするペレスチナ一〇組織はヨルダンーイスラエル合意を個別和平合意への第一歩だと非難している。この反対派は、先週、合意への反対を表明した大衆的デモを開いた。ベイルートでは、五日、PFLP、DFL P（ハワトメ派）、人民闘争戦線（P.S.F.）、ペレスチナ解放戦線（P.L.F.）が合意を拒否する共同声明を発し、「被占領下の郷土の内外のすべてのペレスチナ人民とヨルダンの人民はこの合意と対決し、それを葬り去る」よう呼びかけた。同声明はまた、ペレスチナの交渉団が「被占領地からの撤退に関してイスラエルからならんらの約束もないままに行政的自治政府」の討議を行っていると非難し、和平過程に関して、すべてのペレスチナ人による国民投票をもつて決定すべきであると呼びかけている。

五日発行のエルサレムのアラビア語の週刊アル・バヤデルは、世論調査結果として、被占領地からの撤退に関しても、被占領地からの人々の六一%が和平交渉への参加を継続することに支持を表明し、三四・五%が反対、五%が無回答と報じている。

一〇月一一日

- イスラエル海軍司令官、海からのテロ作戦計画の拡大とレバノン領侵犯を正当化。
- 南部、レジスタンスの攻撃、UNIFILのネパール兵が砲撃戦に巻き込まれて負傷。
- ガザ、ユダヤ人への銃での攻撃、死亡。他方、一四歳のパ人が射殺される。
- 西岸、ヨルダンからの侵入作戦、発見され二人殺される。
- 南部、レバノン、ケセルワン地区的選挙。
- 西岸、ガザ、人民の鬪い。発砲で一人死亡、三人負傷（イスラエル発表）。
- 一〇月一二日
- 西岸、ガザ、人民の鬪い。発砲で一人死亡、五人負傷（イスラエル発表）。
- 一〇月一三日
- 西岸、ガザ、人民の鬪い。発砲で一人死亡、三死因には疑問が大きい。
- 南部、レジスタンスの攻撃。
- 一〇月一四日
- 西岸、ガザ、人民の鬪い。発砲で一人死亡（DF、二六歳）、弁護士、死因には疑問が大きい。
- 南部、レジスタンスの攻撃。
- 一〇月一五日
- 各地でゼネストと闘い。エルサレムで少なくSLA三人が負傷。

一〇月二七日

- イスラエルはレバノンから撤退を。イスラエル側と非難の応酬。
- 西岸、ガザ、ユダヤ人への攻撃三人が負傷。
- 南部、イスラエルの空爆（六カ村）、砲撃（一八町村）、北部のパ・キヤンプへは軍艦からの砲撃、少なくとも計六人が死亡。レジスタンス側も砲撃（ジェズリンで二人が死亡）ガリリーへもロケット攻撃。また、地雷攻撃でSLA三人が負傷。

一〇月二八日

- 西岸、ガザ、ユダヤ人への攻撃三人が負傷。
- 南部、キリヤット・シャモーナにロケット攻撃（八一年以来のこと）、ユダヤ人一人死亡五人負傷。安全地帯ではレバノン人四人死亡。イスラエルの空爆（ベカーラー）二人死亡、三人が負傷、砲撃。イスラエル軍は戦車などを南部に増強。ナスマラード師、レジスタンスは

重 要 日 誌

一九九二年一〇月一一日～一月一〇日

続く、五人が最後ではない、とイスラエルに警告。

一〇月二八日

・二国間交渉、南部情勢を反映して討議にならず、一日早く休会に（ヨルダンを除く）。

・パレスチナ人、交渉からの撤収要求のゼネスト、ダマスでは一〇組織の指導者がデモ。

・南部、イスラエル軍さらに増強。また、イスラエルの砲撃増大。

一〇月二九日

・西岸、ガザ、極右入植者による攻撃に対する人民の抗議行動。

・ヨルダン＝イスラエル、基本（議題）で合意。

・南部、ジェズイン地区で地雷攻撃。SLA四人が負傷、ゲリラ一人死亡。

・メンチュ（ノーベル平和賞受賞者）、イスラエルはグアテマラへの軍事援助の停止を。

・トルコ軍、クルド・ゲリラ掃討を理由にイラク領内深くへ進攻。

一月一日

・南部、イスラエルの砲撃。イスラエル—SLAが七市民を捕虜に。

一月二日

・バルフォア宣言七五周年、各地でゼネスト、人民の闘い。ヘブロンではユダヤ人への攻撃。

・UNIFILノルウェー軍司令官のインタビューエ発表、イスラエル大慌て（本文参照）。

一月三日

・一〇組織、ヨルダンの合意はキャンプ・デービッド型であり、破壊的と非難。

・AUB、爆破一周年、再建に着手。

・米、大統領選、クリントンが圧勝（アラブ諸国の反応は、本文参照）。

・南部、レジスタンスの地雷攻撃。イスラエル

一月五日

・ISLAは砲撃。

・イスラエル、アジアの国交のない国（パキスタン、北朝鮮など）との関係樹立を模索中。

・南部、レジスタンスの攻撃。砲撃戦。

一月七日

・カドウミ＝シャラー会談、協調と連帯の精神、統一的な立場、イスラエルの完全な撤退、国際的な正当性に沿った平和を強調。他方、アベド・ラボはアブ・ジャベルと会談。

・南部、レジスタンスの作戦。

・ナブルス、軍の発砲で二人が負傷。

・アル・ハヤト紙、先週、アラファトがブッシュにPLOとの討議再開を呼びかけた。またアラファトはクリントンに、選出を祝い、米一パレスチナ関係のさまざまな問題を取り扱うようなどいう手紙を送った。

・一月八日

・ナブルス、軍の発砲で二人が負傷。

・南部、地雷攻撃。砲撃戦、また、ガリリーにロケット攻撃、レバノン軍も射ち返す。ブエズ外相、イスラエルは和平過程を破綻させようとしている。政府には、イスラエルがレバノン領土を占領しているかぎり、レジスタンスを阻止する権利はない。

一月一〇日

・西岸、人民の鬭い、三人が負傷。

・南部、地雷攻撃。砲撃戦、また、ガリリーに

・ロケット攻撃、レバノン軍も射ち返す。ブエ

・ズ外相、イスラエルは和平過程を破綻させよ

うとしている。政府には、イスラエルがレバ

ノン領土を占領しているかぎり、レジスタン

スを阻止する権利はない。

・交渉再開、クリントンの政策が明確になるまで進展なし、加えて南部問題での応酬。

・南部、安全地帯へのカチューシャ攻撃。イスラエル軍の増強と空爆、緊張続く。

・ハリリ、占領からの土地の解放、戦争の余波からの国家の解放、腐敗からの行政の解放、無秩序状況からの市民の解放（本文参照）。

一月九日

・西岸、人民の鬭い、三人が負傷。

・南部、地雷攻撃。砲撃戦、また、ガリリーに

・ロケット攻撃、レバノン軍も射ち返す。ブエ

・ズ外相、イスラエルは和平過程を破綻させよ

うとしている。政府には、イスラエルがレバ

ノン領土を占領しているかぎり、レジスタン

スを阻止する権利はない。

